

県地区まちづくり構想

《生活基盤分野 改定版》



県地区まちづくり構想策定委員会

平成18年1月 [策定]

平成25年3月 [改定]

目 次

はじめに	1
1. 岡山の里山づくりによる住民のいこいの場づくり	3
2. 地区を流れる3つの河川の親水空間整備	4
3. 竹谷川におけるホタルの生息環境づくり	5
4. 県道上海老高角線バイパスの建設計画に伴うまちづくり	6
5. 密集した集落の居住環境の改善	7
6. みんなにやさしいまちづくりの推進	8
7. 公園・広場の利活用と管理・運営	9
8. 国道365号沿いの計画的な土地利用	10
9. 雨水排水機能の整備	11
10. 使いやすく親しみやすい公共施設の整備と管理	12
11. 住宅団地の居住環境の維持	13
12. 災害に備えた安全・安心なまちづくり	14
まちづくり構想図	15

はじめに

■県地区まちづくり構想とは？

- 四日市市では、「四日市市都市計画まちづくり条例」に基づき、地域住民が地区の課題や今後の方向性を示す「地区まちづくり構想」を策定し市に提案することにより、市は都市計画マスタープランの地域・地区別構想を策定するといった取り組みが市内各地区で進められています。
- 県地区では、この条例制定に先立ち、平成 16～17 年度に「県地区まちづくり構想」を策定しました。この構想では、‘生活基盤’‘コミュニティ’‘青年’‘農業’の 4 つの部会で構想案を検討する一方、情報発信部会で周知を図ってきました。
- 以降、平成 18 年 1 月に市に提案するとともに、様々なまちづくり活動を展開してきました。

■県地区まちづくり構想の改定について

- 平成 18 年 1 月の市への提案以降、地区内における状況の変化に伴い地区まちづくり構想の内容見直しや加筆・修正が必要となりました。
- そのため、平成 23 年度より「県地区まちづくり構想策定委員会」を再編成し、都市計画分野に絞って見直しを行うこととしました。
- 見直しにあたっては、前回策定した県地区まちづくり構想の生活基盤に関する部分について、内容の時点修正などを行うとともに、必要に応じて項目を加えました。



■県地区が目指す将来像

県地区のまちづくりを考え、進めるにあたって、地区のこれからの姿を表す将来像を次のように掲げます。

自然と調和のとれた 田園都市 あがた

県地区は、地区内を流れる三つの河川や里山などの四季折々の表情を見せる自然や開墾され多くの人々によって受け継がれてきた田園風景に囲まれ、自然と農を肌で感じることでできるのどかな地区です。

このように、ゆったりとしたやさしい時間が流れる県地区で、私たちは互いに助け合い、支え合って暮らしてきました。

しかし、生活スタイルや価値観が多様化したため、同じ地域に暮らす地区住民同士の結びつきが薄れかかっていることも否定できません。

地区の魅力をさらに引き伸ばし、地区が抱える課題を解決するためには、これまで行ってきた取り組みを評価・尊重した上で、さらに地区住民が知恵や時間や労力を少しずつ出し合わなくてはなりません。

また、地区市民センターを始めとした市行政との連携を深め、市と地区住民が協働してまちづくりを進めることも重要です。

このように、行政とのパートナーシップを強めるなかで、地区内の助け合い・支えあいのしくみを再度つくりあげることにより、地区住民が微笑み合って暮らせるまちにしていきたいと願っています。

なお、平成 23～24 年度の改定に際して、‘自然と調和のとれた’まちづくりのためには、柔軟かつ発展的な土地利用を検討すること、コミュニティや福祉、文化活動により‘こころの豊かさ’が実感できるまちづくりを進めることなどが重要であるということが確認されました。

私たちは、これまでの活動や経験を足掛かりに、さらなる豊かな地域づくり活動へとつなげていきます。



1. 岡山の里山づくりによる住民のいきい場づくり

■県地区での現状と課題

- 県地区には、かつて別荘用の住宅地として分譲されたものの、市街化調整区域であるため建物が建てられず、放置された岡山と呼ばれる里山があります。
- 古くから岡山には、生活空間の一部や遠足の目的地として親しまれてきた歴史があり、地区住民にとって愛着が強く残っています。
- 平成 16 年度には、「四日市市市民緑地の指定及び管理に関する要綱」に基づいて、一部の地権者から了解を取り付け、地区住民の手によって岡山の一部を整備しました。平成 17 年 5 月に、市民緑地第 1 号「グリーンパーク岡山」としてオープンしました。
- 整備着手以降、7 年間で第 3 次整備区域まで整備範囲を広げ、全国森林レク地域美化活動コンクールで「全国森林レクレーション協会会長賞」を受賞するなど全国でも有数の緑を感じることでできる里山空間をつくり上げました。また、年に数回、多世代が交流したり、環境について学んだりする機会も提供しています。
- しかし、第 4 次整備区域の地権者のなかには、借地契約に応じて頂けない方もおり、制度の更なる充実や新たな制度の研究が望まれます。また、整備を進めている「岡山を愛する会」については、会員の固定化や高齢化が進んでおり、新たな担い手の発掘や養成が課題となっています。

■今後の方向性

- 池や緑など自然に包まれた里山としてグリーンパーク岡山の整備区域を拡大し、かつての農村的な風景を想起させる、地区の誇りとなる憩いの場をつくります。
- 現在においても市民に親しまれているグリーンパーク岡山ですが、今後も更なる里山空間づくりを行っていくことにより、地区住民同士、あるいは子どもから高齢者まで世代間交流の場としての性格を強め、明るく楽しい地域づくりを目指します。
- 今後、「グリーンパーク岡山」の持続可能性を高めるため、市民緑地制度の良さを生かしつつ、担い手の確保や運営に係る支援の充実に向けた新たな制度の研究などを働きかけます。また、市内外の里山保全に関する活動との交流・連携を図ります。

どのように	地域が取り組むこと
なにをいつおこなう	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の活動団体が互いに連携して、グリーンパーク岡山を舞台にしたイベントや学習会を拡充し、地区住民の関心や愛着の向上を図ります。(短期) ・地域の活動団体が市民緑地の整備における担い手・後継者を確保・養成し、活動の発展に取り組めます。(短期)

どのように	行政・関係機関に働きかけること
なにをいつおこなう	<ul style="list-style-type: none"> ・地権者の協力が得られやすくなるなど、市民緑地制度を超えた新たな取り組みの研究を働きかけます。(短期～中期)



2. 地区を流れる3つの河川の親水空間整備

■県地区での現状と課題

- 県地区には、海蔵川、三滝川、竹谷川の3つの河川が流れており、それぞれ特徴のある趣を持っている半面、一部では水害の危険が懸念されています。
- 3つの河川は、水防対策は整っていますが、大火災時などの消火用水利機能について検討する必要があります。

■今後の方向性

- 3つの河川それぞれの特徴に応じた河川及び河川敷の整備を促すとともに、地区における環境美化を進め、ウォーキングや散歩の場として地区の魅力や地区の一体感を向上させます。
- 海蔵川については、水害の危険性を軽減させるとともに、清掃活動を行うなど環境美化に努めます。
- 竹谷川については、黒橋からもみじ橋の間でウォーキングなどができるよう整備を働きかけるとともに、小学生の通学路となっている右岸の車両通行規制を検討します。
- 三滝川などの河川沿いへの不法投棄については、それぞれの地区の自治会や活動団体が連携し、対策を検討します。

どのように	地域が取り組むこと
なにをいつおこなう	・地域の活動団体が主体となって、海蔵川の河川敷の環境美化、不法投棄対策及び消防水利の確保に努めます。(短期)
	・地域の活動団体が主体となって、竹谷川の堤防における通学時間帯の安全確保に取り組みます。(短期)
	・地区の自治会や活動団体が連携し、三滝川の不法投棄の未然防止に努めます。(短期～中期)

どのように	地域と行政が協働して行うこと
なにをいつおこなう	・竹谷川の右岸において、地権者の合意のもと車両通行規制を行ったうえで通学路並びにウォーキングコースとして利活用できるよう、環境整備を進めるとともに、イベントなどを通して地区を巡る機会の提供に取り組めます。(短期～中期)

どのように	行政・関係機関に働きかけること
なにをいつおこなう	・海蔵川において、氾濫を未然に防ぐための護岸整備及び浚渫を働きかけます。(中期)
	・竹谷川において、散歩道・親水空間としての整備を働きかけます。(中期)



3. 竹谷川におけるホタルの生息環境づくり

■県地区での現状と課題

- 竹谷川は、市内有数のホタルの生息地であり、地域の活動団体がごみ拾いなどをしてホタルの住みやすい環境をつくる活動を継続してきた結果、ホタルだけでなく植物が繁茂し、多くの昆虫、小動物、鳥類などが集まるようになりました。しかしながら、汚泥水の流入などにより、竹谷川の水質やカワニナの生息環境の悪化が懸念されています。
- 今後、ホタルの生息環境をより良いものとするため、水質浄化や環境整備を継続して進めることが求められます。
- 竹谷川に隣接している県小学校でも、総合学習の時間などを利用して、竹谷川の自然や虫と親しんでいます。

■今後の方向性

- 竹谷川の上流から下流にかけて、地域自治組織と小学校、地域の活動団体が連携しながら虫の生息環境を整備する活動を継続するとともに、不法投棄対策や水質浄化など新たな課題の解決に向けて取り組み、自然を身近に感じる県地区らしい空間整備を進めます。

どのように	地域が取り組むこと
なにをいつおこなう	・地域の活動団体が取り組んでいる環境美化や、小学校が行っている自然体験学習などを継続して実施します。(短期)

どのように	地域と行政が協働して行うこと
なにをいつおこなう	・地域の活動団体が行政等関係機関と連携し、不法投棄対策や水質検査を定期的実施し、竹谷川の水質悪化防止の取り組みを一層強化します。(短期～中期) ・ホタルが鑑賞できる時期に、竹谷川の堤防における交通渋滞や交通事故が起きないように、対策を検討します。(短期～中期)



4. 県道上海老高角線バイパスの建設計画に伴うまちづくり

■県地区での現状と課題

- 県地区の西部において、国道 477 号バイパス及びそれにつながる県道上海老高角線バイパスの建設が進んでいます。
- これらの道路は朝夕を中心に交通量が多く、児童・生徒の登下校時に安全を確保することが大変である他、建設によって地区が分断されないように配慮し、住民が親しみの持てる道路として整備されることが望まれます。

■今後の方向性

- 県道上海老高角線バイパスの整備について、県との情報共有を継続的に行い、必要に応じて、地区住民との協働による事業実施を求めます。

どのように	地域が取り組むこと
なにをいつおこなう	・ 県道上海老高角線バイパスの整備に合わせ、地域の活動団体が道路完成後の環境美化について地域で協力できることは積極的に行います。(中期)

どのように	地域と行政が協働して行うこと
なにをいつおこなう	・ 県道上海老高角線バイパス沿道の火災により焼失した家屋の除却等について、関係者及び行政と協議を行い、環境改善に取り組みます。(短期～中期) ・ 県道上海老高角線バイパスの整備を進めるに際して、県との協働により情報共有や意見交換を行います。(短期～中期)

どのように	行政・関係機関に働きかけること
なにをいつおこなう	・ 県道上海老高角線バイパスの早期完成を働きかけます。(短期～中期)



5. 密集した集落の居住環境の改善

■県地区での現状と課題

- 県地区の中でも、平尾町、上海老町、下海老町では、住宅が密集して生活道路の道幅も狭いうえ、一部では家屋の建て替え時などのセットバックも進まず、交通や防災上の不安や危険が高まっています。
- 県道田光－四日市線は、交通量が多いにもかかわらず道幅が狭いため、小学校の北側にバイパスを整備するなど、解決策を検討する必要があります。
- 下海老町周辺では、県道田光－四日市線から北側に延びる道路が整備されておらず、農道を拡幅するなどして幹線道路として整備することが求められています。また、下海老町の北側にある海蔵川に架かる橋が狭く重量制限があることから、兩岸の道路が整備されたとしてもボトルネック状態になってしまいます。

■今後の方向性

- いきなり道幅を広くすることは難しいので、危険な箇所をチェックして回り、生活道路を安全に利用できる方法を考えます。
- 密集を解消するため、道路沿いのセットバックについての周知や徹底に向けた意識啓発などを地区が主導して行うとともに、建築協定や地区全体の将来像を考えた集落地区計画やまちづくり協定などの検討をします。
- 県道田光－四日市線については、関係する住民を含めて、バイパス化や拡幅の可能性について検討します。また、下海老町周辺から北側に延びる道路についても、路線などについて検討します。

どのように	地域が取り組むこと
なにをいつおこなう	・密集した集落において、当面の安全性を確保するため、セットバックの徹底を図るとともに、危険箇所の把握やすれ違い待避所の設置に向けた検討を進めます。(短期)

どのように	地域と行政が協働して行うこと
なにをいつおこなう	・行政と地域の活動団体が連携し、県道田光－四日市線について、バイパス化や拡幅の可能性、下海老町周辺から北側に延びる道路の延伸などについて検討します。(短期～中期)
	・行政と地域の活動団体が連携し、道路沿いのセットバックなどを規定した建築協定、集落地区計画やまちづくり協定を検討し、将来的な集落の密集解消に取り組みます。(中期～長期)
	・地区としての整備の優先順位を検討した、地区内の県道や市道について、効果的な道路整備の申し入れなどを行います。(中期～長期)



6. みんなにやさしいまちづくりの推進

■県地区での現状と課題

- 地区内の生活道路には段差や側溝などが多くあり、側溝と道路とのわずかな段差が高齢者にとっては転倒の原因になることもあります。今後、みんなが安心して暮らせるよう、バリアフリーに配慮した道路などの基盤整備を進める必要があります。
- 県地区市民センターのホールは2階にあり、エレベーターがないため昇降が困難な高齢者が少なくありません。改善策としてエレベーターや1階に小ホールを増設することが望ましいですが、公共施設の改修には様々な制約があることから、利用しやすい施設のあり方について、検討・改善することが望まれます。

■今後の方向性

- 日常的に利用する生活道路や公共的な施設について、危険な箇所をチェックして「危険箇所マップ」を作成し、生活道路を安全に利用できる方法を考え、みんなにやさしいまちづくりに取り組みます。
- 今後整備を行う県道や市道について、歩道の整備を働きかけ、歩車道の分離を進めます。

どのように	地域が取り組むこと
なにをいつおこなう	・生活道路や公共的な施設について、危険な箇所をチェックして回り、生活道路を安全に利用できる方法を検討します。(短期)
	・地区市民センターなど公共施設において、手軽に作成できる座イスを和室で使用するなど、誰もが利用しやすい施設利用を検討します。(短期～中期)
	・日常的に利用する狭い生活道路において、待避所が必要な箇所等では地権者に協力を求めます。(短期～中期)

どのように	地域と行政が協働して行うこと
なにをいつおこなう	・生活道路の交通安全のため、地区内での改善策を検討し、関係機関への申し入れなどを行います。(中期)

どのように	行政・関係機関に働きかけること
なにをいつおこなう	・地区内の都市基盤整備や公共施設について、バリアフリー化を関係機関に働きかけます。(短期～中期)
	・県道上海老高角線において、歩道が連続していない箇所の早期整備を働きかけます。(短期～中期)



7. 公園・広場の利活用と管理・運営

■県地区での現状と課題

- 県地区には広い面積を有する、けんけんぱあ〜くなどがあり、スポーツの場として利用されています。管理については、主に、少年野球とグランドゴルフの利用者が日常的に行っているほか、年2回地区を挙げた除草作業と法面の伐採を行っています。今後、施設の適切な維持管理を行うことが課題となっています。
- 地区内の公園や児童遊園については、小学校PTAや地区の公園愛護会などが管理を担っていますが、活動の継続と市からの提供資材の拡大が望まれます。
- 県小学校前に整備された連携花壇については、学校と地区住民とが連携して植栽や維持管理を行ってきましたが、今後は、地区全体で取り組むことが課題となっています。また、地域清掃や環境美化活動を通じて、世代間の交流を進めることが望まれます。

■今後の方向性

- 現在地区内にある公園や児童遊園などについて、利用状況や維持・管理の現状を調査し、利用の促進や有効活用の方法を検討します。その際、交流のための仕掛けづくりや持続性のある維持・管理のあり方についても併せて話し合います。

どのように	地域が取り組むこと
なにをいつおこなう	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の活動団体が子ども会やPTA、長寿会などと連携し、公園や児童遊園の維持管理や有効活用などを担います。(短期～中期) ・公園や児童遊園の維持管理、地域清掃や環境美化の活動を世代間交流の機会として捉え、地域を挙げた取り組みを推進します。(短期～中期)

どのように	地域と行政が協働して行うこと
なにをいつおこなう	<ul style="list-style-type: none"> ・公園・広場の必要性を行政とともに検討を進め、必要に応じて行政に対して整備を働きかけます。(中期～長期)



8. 国道 365 号沿いの計画的な土地利用

■県地区での現状と課題

- 国道 365 号には歩道や自転車道が設置されておらず、自転車で通学する中学生や高校生、老人センターに通う高齢者などの歩行者にとって危険な状態になっています。
- 国道 365 号の北東側には赤坂温泉があり、その温泉を楽しむことができる四日市市西老人福祉センターがあります。また、その周辺には、約 50ha (約 500,000 m²) の広大な土取りの跡地があり、民間の事業者による開発が計画されています。今後、四日市市西老人福祉センターの活用や周辺の開発による地域の活性化が期待されます。
- 県地区では、毎年 1 回、実行委員会形式で開催されるサロンコンサートの会場としてきらら学園をお借りしていますが、きらら学園の東側にある空き地に地域でも利活用が可能な施設の整備が望まれます。
- きらら学園の東側にある遊休地は、現在市の発達支援センターなど福祉系施設の整備が検討されていることから、今後の利用方法について考える必要があります。

■今後の方向性

- 地区内を通る国道 365 号について、歩行者や自転車の安全性を確保するとともに、地域の発展につながる沿道の土地利用について関係事業者と協議を進めます。
- 赤坂温泉が湧出する土取りの跡地周辺で計画されている工業系の民間開発について、地域の活性化や魅力向上につなげる方法を模索します。
- きらら学園東側の空地については、けんけんぱあ〜く等の利用状況や岡山の整備状況を考慮しつつ、市の福祉的機能と地区のふれあい機能が共存できるような整備に向け、検討の場づくりを行政に働きかけます。

どのように	地域と行政が協働して行うこと
なにをいつおこなう	・きらら学園東側の空地の活用方法について、福祉施設の整備に合わせた地区住民のふれあいの場づくりを進めるため、関係機関との話し合いを進めます。(短期～中期)

どのように	行政・関係機関に働きかけること
なにをいつおこなう	<ul style="list-style-type: none"> ・国道 365 号の交通安全性を高めるため、歩道や自転車通行帯の整備を行政に働きかけます。(短期) ・きらら学園東側の空き地の活用については、地区住民等の意見が十分盛り込まれるよう行政に働きかけます。(中期～長期) ・国道 365 号の沿道の土地利用について、地区の発展を促しながらも法令等に沿って適切に進め、更に地域の活性化や魅力向上につながるよう、行政及び関係機関に働きかけます。(中期～長期)



9. 雨水排水機能の整備

■県地区での現状と課題

- 県地区では、一部で雨水に関する排水処理が整備されておらず、特に下海老町や平尾町栄などでは、早急な整備が求められています。
- 赤水町のコンビニエンスストアから竹谷川に向かう福祉施設周辺の市道上海老赤水2号線においては、整備の際に排水溝の整備ができていなかったため、雨水排水が集中するため集中豪雨の際などに冠水しやすくなっています。

■今後の方向性

- 排水処理は、生活環境の改善に直接的に関係することであるため、地区内の雨水排水処理の状況を整理した「排水溝マップ」の作成を行い、行政の担当部署に対して整備を働きかけます。

どのように	地域が取り組むこと
なにをいつおこなう	・効果的な排水施設の整備を検討するため、地区内の雨水排水処理の状況を整理した「排水溝マップ」を作成します。(短期)

どのように	地域と行政が協働して行うこと
なにをいつおこなう	・効果的な排水処理整備を検討するため、地域の現状に応じた順位付けを行い、行政に雨水排水施設の整備・維持管理を申し入れます。(短期～中期)



10. 使いやすく親しみやすい公共施設の整備と管理

■県地区での現状と課題

- 県地区では文化活動や生涯学習などが活発で、多くの団体・グループが地区市民センターを使っています。現在、団体・グループの活動場所として県小学校の多目的室や体育館も利用していますが、活動の多様化やグループの増加に対応することが求められています。
- 現在、地域の各種団体により公共用地等を活用した花壇設置や緑化活動が行われています。

■今後の方向性

- より多くの地区住民が使いやすく親しみやすい地区市民センターとなるよう、多目的ホールや小学校の多目的室及び体育館の利用方法について改善方を各種団体で協議するとともに、新たな活動の場として農業センターのホールの活用を検討します。
- 今後も地区全域で親しみやすく魅力ある空間づくりに取り組んでいきます。

どのように	地域が取り組むこと
なにをいつおこなう	<ul style="list-style-type: none"> ・花と緑いっぱい事業等を活用し、親しみやすく魅力ある空間づくりを進めます。(短期) ・公共施設の有効活用や維持管理について地区住民が責任を持ち、各種団体で協議しつつ、できることを積極的に取り組みます。(短期～中期)

どのように	行政・関係機関に働きかけること
なにをいつおこなう	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて地区市民センターをはじめ、地区内の公共施設のバリアフリー化やリニューアルなどを働きかけます。(中期)



11. 住宅団地の居住環境の維持

■県地区での現状と課題

- 県地区には、あがたが丘という住宅団地があります。現在のところ、人口はそれほど減少していないものの、居住者の高齢化や買い物弱者・移動弱者の増加が課題となっています。
- 団地内の道路に、路上駐車が問題となっており、居住者や来訪者のマナー向上が求められます。
- あがたが丘にある商店街も厳しい状況にあり、唯一の食料品店が閉店してしまいました。現在は、週2回、地区外の事業者による移動販売がありますが、今後も日常的な買い物を支援する取り組みが望まれます。
- 現在、あがたが丘を発着地とする路線バスが運行されていますが、利用者が減少すると路線の縮小や撤退が懸念されます。県地区では交通手段の確保が重要な課題であることから、公共交通の維持に向けた利用促進が求められます。

■今後の方向性

- 住宅団地の魅力を維持するため、団地内道路の景観や環境美化を検討し、路上駐車等をなくします。また、高齢者の見守りや生活利便性の確保について、住民などの意向を踏まえつつ検討します。
- 公共交通を維持するため、地区住民による利用促進に取り組みます。

どのように	地域が取り組むこと
なにをいつ おこなう	・農家の協力のもと地元で取れた農産物などを販売する朝市を開催するなど、日常的な買い物を支援する仕組みづくりに取り組みます。(短期～中期)
	・あがたが丘団地など地区内の住宅団地を維持・再生するため、景観形成や生活マナーの向上に取り組みます。(短期～中期)
	・あがたが丘の団地内にある集会所を活用し、各種サークル活動や高齢者などを対象にしたサロンの開催を企画・運営します。なお、それらの事務的な作業を担う管理人の配置も検討します。(短期～中期)
	・既存路線バスの今後のあり方について検討するとともに、地域で利用促進に努めます。(短期)
	・地区周辺を巡回する新たな公共交通の仕組みの導入について可能性を検討します。(短期～中期)

どのように	地域と行政が協働して行うこと
なにをいつ おこなう	・将来のあがたが丘団地の居住環境を維持・向上させるため、有志による検討会を開催し、必要に応じて行政に支援を仰ぎます。(短期)



12. 災害に備えた安全・安心なまちづくり 【追加項目】

■県地区での現状と課題

- 平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は、改めて地震の恐ろしさを痛感するとともに、本地区における災害に備える必要性・重要性を再確認するきっかけになりました。
- この地域においても、南海トラフ地震がいつ起きてもおかしくない状況にあるほか、ゲリラ豪雨や台風など、様々な被害が懸念されており、自助・共助・公助による防災・減災の取り組みが求められています。

■今後の方向性

- 集中豪雨や台風による土砂災害や河川の氾濫の未然防止、地震により道路や橋が寸断されないよう、都市基盤の長寿命化や耐震化などを働きかけます。また、災害発生時などに関連情報が地区住民に伝達できるよう、地域と行政、地域内での連携をそれぞれ強化します。
- 学校等の避難場所の見直しや避難所開設訓練の強化など、自助・共助による自主防災機能の向上に取り組みます

どのように	地域が取り組むこと
なにをいつおこなう	・ 県地区自主防災協議会を中心に、防災訓練及び避難所開設訓練などを実施し、地域の防災・減災機能の向上に取り組みます。(短期～中期)

どのように	地域と行政が協働して行うこと
なにをいつおこなう	・ 災害発生時など緊急時に避難などの関連情報を地区全体に周知するため、互いに連携しつつ伝達する体制を整備します。(短期～中期)

どのように	行政・関係機関に働きかけること
なにをいつおこなう	・ 集中豪雨や台風などによる土砂災害や河川の氾濫などが起きないように、未然の防止対策を働きかけます。(短期～中期) ・ 地震発生時に緊急輸送路が確保できるよう、道路や橋梁など都市基盤の長寿命化や耐震化などを働きかけます。(短期～長期)



県地区まちづくり構想図

10. 使いやすく親しみやすい公共施設の整備と管理

- 花と緑いっぱい事業等の活用による空間づくり
- 公共施設の有効活用や維持管理の協議と取り組み
- ◆地区内の公共施設のバリアフリー化やリニューアルなどの働きかけ



12. 災害に備えた安全・安心なまちづくり

- 地域の防災・減災機能の向上
- ◇災害関連情報を伝達する体制整備
- ◆土砂災害や河川の氾濫など未然の防止対策
- ◆道路や橋梁など都市基盤の長寿命化や耐震化



1. 岡山の里山づくりによる住民のいこいの場づくり

- グリーンパーク岡山のイベント・学習会の拡充
- 担い手・後継者を確保・養成
- ◆市民緑地制度を超えた新たな取り組みの研究



3. 竹谷川におけるホタルの生息環境づくり

- 環境美化や自然体験学習などの継続
- ◇不法投棄対策や水質浄化などによる環境の向上



4. 県道上海老高角線バイパスの建設計画に伴うまちづくり

- 道路完成後の地域の活動団体による環境美化
- ◇整備にかかる県との情報共有や意見交換
- ◆県道上海老高角線バイパスの早期完成



2. 地区を流れる3つの河川の親水空間整備

- 海蔵川の河川敷の環境美化、不法投棄対策及び消防水利の確保
- 竹谷川の堤防における通学時間帯の安全確保
- 三滝川の不法投棄の未然防止
- ◇竹谷川右岸の環境整備と地区を巡る機会の提供
- ◆海蔵川の護岸整備及び浚渫
- ◆竹谷川の散歩道・親水空間としての整備



5. 密集した集落の居住環境の改善

- セットバックの徹底、危険箇所への把握やすれ違い待避所の設置に向けた検討
- ◇県道田光一四日市線のバイパス化や拡幅の可能性、下海老町周辺から北側に延びる道路の延伸の検討
- ◇建築協定、集落地区計画やまちづくり協定の検討による将来的な集落の密集解消
- ◇地区内の県道や市道の効果的な道路整備の申し入れ



【凡例】

- : 地域が取り組むこと
- ◇: 地域と行政が協働して行うこと
- ◆: 行政・関係機関に働きかけること

11. 住宅団地の居住環境の維持

- 日常的な買い物を支援する仕組みづくり
- 景観形成や生活マナーの向上
- 集会所を活用したサロンの企画・運営
- 既存路線バスのあり方検討、利用促進
- 新たな公共交通の仕組みの可能性検討
- ◆居住環境を維持・向上させるための検討会の開催



9. 雨水排水機能の整備

- 地区内の雨水排水処理の状況を整理した「排水溝マップ」の作成
- ◆地域の現状に応じた雨水排水施設の整備・維持管理



8. 国道365号沿いの計画的な土地利用

- ◇きらら学園東側の福祉施設の整備に合わせた地区住民のふれあいの場づくり
- ◆国道365号の歩道や自転車通行帯の整備
- ◆きらら学園東側の整備にかかる地区住民等の意見反映
- ◆地域の活性化や魅力向上につながる国道365号の沿道の土地利用



7. 公園・広場の利活用と管理・運営

- 公園や児童遊園の維持管理や有効活用
- 世代間交流の機会としての地域清掃や環境美化
- ◇公園・広場の必要性の検討と必要に応じた整備



6. みんなにやさしいまちづくりの推進

- 生活道路を安全に利用できる方法の検討
- 誰もが利用しやすい公共施設とするための工夫
- 狭い生活道路への待避所に向けた取り組み
- ◇生活道路の交通安全に向けた地区内での改善策の検討及び整備の働きかけ
- ◆都市基盤や公共施設のバリアフリー化
- ◆県道上海老高角線の歩道の早期整備

